



令和6年3月 静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場ニュース

アントクメ天然採苗、幼体育成

伊豆分場では2022年から稲取漁港の岸壁に生育するアントクメの近傍に採苗ロープを設置し、天然採苗試験を行っています。今年度は2024年1~2月の潜水調査でロープに幼体が着生している様子を確認しました。現地で採取した幼体を分場の水槽内で育成し、海藻移殖研究に活用する予定です。また、一部を西伊豆の漁業者に提供し、田子港内にて養殖ロープによる海上育成を予定しています。

アントクメは西伊豆で「しわめ」と呼ばれ、地域の特産品として親しまれています。しかし近年、天然海域の着生量が減少しており、地元の漁業者が共同で養殖試験に取り組んでいます。去年は魚類による食害を受け、うまく育成できませんでした。今年は防除ネットで対策したうえで、2度目の育成に挑戦します。



↑(上)採苗されたアントクメ、(下)水槽内での育成

赤沢の深層水でカジメを育成中

伊東市赤沢港にいう漁業協同組合赤沢深層水施設があります。株式会社DHCが水深800mから汲み上げている深層水の供給を受けてます。栄養塩の高さや水温の低さといった深層水の利点を活かし、海藻カジメの種苗を養成し、磯焼け対策の一環として、いう漁協管内に提供することを考えました。水深800mからの深層水は10℃以下と冷たく、カジメの生息には不適であることがわかりましたが、現在、カジメの育成に効果的な水温や光条件を検討しています。



↑深層水によるカジメの育成

定置網でブリの漁獲が始まりました

伊豆東岸の定置網でブリの漁獲が始まりました。2月の中旬から少しずつ入り始め、2月25日に2.5トン水揚げされるなど、日に1トンを超えるような水揚げが続いています。魚体重も多くが10kgを超える立派なブリです。

ここ数年、体重6kgを超えるブリの好調な水揚げが続いています。水揚げのピークは例年3月~4月ですので、今後さらなる好漁が期待されま



↑伊東魚市場に水揚げされたブリ

3月の予定 ●全国青年・女性漁業者交流大会 南伊豆青年部が発表（6~7日 東京） ●一都三県キンメダイ協議会（13日 千葉） ●ブリの資源管理方針に関する検討会（19日 東京） ●下田市水産・海洋学講座（7日） ●キンメダイ種苗生産研究等報告会（21~22日 大阪） ●潜水調査（テングサ作柄調査 ほか）

連絡先：静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場 〒415-0012 下田市白浜251-1 電話：0558-22-0835

アドレス：suigi-izu@pref.shizuoka.lg.jp ホームページ：https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/izu

会場には、自由に見学できる展示施設があります。皆様のお越しをお待ちしています。